



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話(代表)：03-3646-4121 FAX：03-3946-7599

E-メール：kodomokikin@nifty.com ホームページ：http://homepage3.com/vcf/

# ベトナム子ども基金通信

No.49

2010.4.4



校庭で体操をする中学生(ハノイ・スラ中学校)

2年ほど前に夕張を訪れたことがあります。以前から夫は自分のルーツを知りたいという願望があり、還暦を迎えやっと実現した旅でした。戸籍謄本を頼りに市役所で墓籍簿を調べてもらいましたが墓石は見つからず、たぶんあの辺りに住んでいただろうということくらいしか分かりませんでした。それは『幸福の黄色いハンカチ』のロケで使われた炭住(炭鉱で働く人の住宅)辺りでした。町を歩き回った後、石炭博物館へ寄り当時の写真を見ました。採炭の仕事を終え、トロッコに乗った

すすだらけの炭鉱夫の姿だったり、大きな湯船で仲間と一緒に笑いながら入っている姿だったり、自分の父親の姿を探しているように見えました。

東京オリンピックを機に日本の高度成長時代が始まり、団塊の世代といわれる夫は「子どもの寝顔しか記憶にないからな…」と言いながら初孫をぎこちない手つきで抱き、かたわらには里帰りした長女が洗濯物を畳んでいます。いつの時代も親は子どもを育てるために一生懸命働き、その先には未来や希望があると信じて日本人は生きてき

ました。

縁あってベトナム子ども基金に参加させていただいております。アジアの子どもたちが平等に教育を受け、自国の文化や伝統を受け継ぎ、プライドを持って次世代にバトンタッチをしてほしいと思います。幸せはほんの少しの優しい言葉や手助けで感じるものです。ベトナムの子どもたちのほほ笑みは支援している私たちが幸せを分けてもらっているような気がします。

ささき かずこ  
(佐々木 和子)

# 2009 ベトナムスタディツアー

2009年のツアーは10月10日出発で15日早朝帰国の現地4泊（ハノイ2泊、フエ2泊）で行われました。参加者は日本からの6名に加えて、通訳案内役の青葉奨学会のシュン氏、昨年のツアーでも同行してくれたタンロン大学学生のトゥーさんの8名でした。

ツアーの第一の目的である里子との交流は、今回は個別訪問ではなく、ハノイ、フエ周辺の里子たちに集まってもらい、パーティーを開きました。パーテ



ハノイでの里子との交流会

ーには、里子の保護者や青葉奨学会の現地コーディネーターで千葉大留学後にハノイで起業したフォンさんや、国際交流基金ベトナム日本文化交流センタースタッフの横山さんが参加され、盛況となりました。とりわけ、各地のコーディネーターの方々と接することができ、私たちの奨学金が多くの人たちの手助けによって里子たちに渡されているということを実感しました。

歓談で盛り上がる中、子どもたちの自己紹介では将来の進路や夢が語られ、歌も披露されました。私も同行のトゥーさんに前日に訳してもらったベトナム

語のあいさつをしたのですが、どこまで通じたことやら。

また、フエでの交流会では、参加者の神谷さんの指導による和紙人形やヤジロベエ、のぞき眼鏡作りに、子どもたちは熱心に興じていました。

もうひとつのツアーの目的であった教育施設訪問は、ハノイ、フエの小中高校のほか、孤児施設や養護クラスのある学校も回ることができました。現地のコーディネーターの方々の計らいで、思いがけず学校の校長先生たちから歓待を受け、恐縮してしまいました。

有名校ばかりの訪問とはいえ、先生、生徒ともに熱心な授業風景に感銘を受けました。一方で、孤児を受け入れているハノイのボデ寺で暮らす捨て子の乳児たち…。こうした子どもたちをはじめ、不幸な境遇に生まれ育ったがために、その人生を、将来の可能性を制限されてしまうことはなんて悔しいことか。その素晴らしい才能や高い人格を开花させることなく埋もれさせてしまうなら、とても残念です。彼らのみならず、私た



ボデ寺での孤児とボランティア

ちの未来にとっても大きな損失ではないでしょうか。その才能、人格により、これからの世界が改善されるかもしれないのに。

日中の日程を終えて、ハノイの夜は、ツアーの際にはいつもお世話になるムイ先生のご厚意で、先生が学長を務めるタンロン技術学院の食堂で、市場で仕入れてきた食材を使い、みんなでベトナム料理教室となりました。裸電球の下で車座になりながら春巻きを巻いていると、な

んともいえない郷愁を覚えま



学食でベトナム料理教室

一方、フエの夜はフエ郊外のミーアン温泉に宿泊しました。元は日本企業の出資だったとかで、「Onsen」とそのまま日本語の名前です。プール式の温泉ですが白濁で温度も高く泉質はなかなかのものでした。インターネットでの予約でしたが、支配人がとても親切に対応してくれて、思い出深いホテルとなりました。もしフエに宿泊されることがあればおすすめします(My An Onsen Spa Resort)。

今回のツアーでは、観光地見学は少なめでしたが、多彩な人たちとの出会いと交歓があり、とても有意義で感動的な旅になりました。とりわけ、たくさん子どもたちに接することができたことは、顔の見える支援をしていく上で強い動機となります。

さて、今年のツアーでは、どんな出会いや心動かす出来事があるのでしょうか。

くろは ひろし  
(黒羽 宏)



フエでの里子との交流会



サダンろう学校の子どもたち

# 特定非営利活動法人「ベトナム子ども基金」 が設立認証されました

昨年より進めてきたNPO法人化が昨年10月15日付で認証され、新たに「ベトナム子ども基金」として出発しました。

主な活動はこれまでと変わりありませんが、名称が子供→子どもと変更になっただけでなく、今後は世間での認知度を高め、支援の輪をよりいっそう広げていき、新たなプロジェクトも開始していきたいと思っております。そのためにも、会計報告や活動報告、年間計画などをより明確にしていきます。どうぞ継続して、ご支援をお願いします。

特定非営利活動法人 ベトナム子ども基金

理事長 近藤昇

副理事長 中原和夫

理事 小木曾友 萩野正司 南康雄 奥山義夫

監事 黒川厚雄 岡村進

運営委員 近藤昇 中原和夫 南康雄 奥山義夫 黒羽宏 今井幸恵 上野義美  
吉原とも子 本間きく 小河原理枝 原二郎 樋川好美 (事務局長)

任期は平成23年5月31日までとする。

## ホウエさんのこと～小木曾友さん講演から

昨年12月19日にはベトナム子ども基金発会式を行い、(財)アジア学生文化協会理事長の小木曾友さんによる記念講演「ホウエさんのこと」が行われました。

- ホウエさんとの付き合いは、ホウエさんが1964年に京都から東京大学の修士課程で理論物理を勉強するため上京し、穂積先生の主宰する新星学寮に入寮したときから始まった。
- '74年、ベトナム戦争が最終局面を迎えようとしていたころ(いわゆるサイゴン陥落は'75年4月末)、ホウエさんはベトナムに帰国することを決意。周りの日本人はすべて帰国に反対していたが、ホウエさんの決意は変わらなかった。当時、在日ベトナム留学生は、ベ平統(ベトナムの平和と統一のために闘う在日ベトナム人の会)と、ホウエさんのように反米・民族主義の立場をとるグループの2つに分かれていた。
- '85年ごろ、ホウエさんから前ABK理事長の田井重治さんと岡村進さんに、解放後初めてベトナム語で手紙があり、消息が分かった。'90年、ABKはホウエさんを1か月間日本に招待し、高度成長した日本をくまなく見てもらった。戦後にできた社会主義政権下でも、ホウエさんは、反米・民族主義の立場が評価されて、再教育センターに行くことを免れたそうである。
- 日本にいるときから、埼玉県小川町や静岡県富士市で製紙業の研修を受けるなど、帰国後に備えて、祖国の再建に役立つような技術を学んでいた。戦後、新政権の要請を受け、10か所の製紙工場を建設した。アメリカの空爆を受けた橋や戦車の残骸(ざんがい)から鉄材などを入手し、手作りで機械を作った。こうした機械はその後長く稼働したと聞いている。
- 1か月間の日本見学旅行から帰国後、祖国の再建のためには日本の進んだ科学技術の導入が不可欠であると感じたホウエさんは、まずベトナム人が日本語を学ぶことが必要であると考え、'91年、ドンズー日本語学校を設立した。ドンズーを支援するため、ABKは「ドンズーを支援する会」をボランティアで作り、日本人の先生をベトナムに送ることに尽力した。また2人のベトナム人日本語教師を訓練のため、半年間ABK日本語コースに招へいし、研修を受けてもらった。



## 2009年決算報告書

2009年1月1日～10月31日

項目	A 2009年予算額	B 2009年決算額	B-A 差額
<b>* 収入</b>			
当期里親基金(一般)	5,650,000	3,911,020	▲ 1,738,980
当期里親基金(学生)	0	20,000	20,000
当期一般基金	330,000	154,000	▲ 176,000
当期賛助金	220,000	91,080	▲ 128,920
黄梅基金	500,000	1,413,338	913,338
利息 その他収入	500,000	127,425	▲ 372,575
当期総収入	7,200,000	5,716,863	▲ 1,483,137
前期繰越額	1,231,795	1,231,795	0
収入合計額	8,431,795	6,948,658	▲ 1,483,137
<b>* 支出</b>			
奨学金	4,400,000	1,652,164	▲ 2,747,836
黄梅基金	1,300,000	1,453,569	153,569
その他支援	600,000	185,080	▲ 414,920
支援金額合計	6,300,000	3,290,813	▲ 3,009,187
<b>経費</b>			
発送費	200,000	88,920	▲ 111,080
事務所費・会議費	150,000	19,300	▲ 130,700
印刷費・コピー費	250,000	198,267	▲ 51,733
通信費	50,000	81,600	31,600
年会費・参加費	0	0	0
備品・消耗品購入費	40,000	29,985	▲ 10,015
スタッフ活動費			
ホーチミン事務局	0	0	0
東京事務局	360,000	0	▲ 360,000
損害保険ビザ取得	0	0	0
交通費(ホーチミン)	0	0	0
交通費(東京)	350,000	73,700	▲ 276,300
雑費・振込み手数料	60,000	70,045	10,045
当期経費支出額	1,460,000	561,817	▲ 898,183
当期収支差額	671,795	3,096,028	2,424,233
<b>* 当期繰越金差額</b>	671,795	3,096,028	2,424,233

2009年11月～ 2010年3月の予算
2,000,000
10,000
70,000
40,000
200,000
60,000
2,800,000
3,296,028
8,476,028
3,600,000
50,000
500,000
4,150,000
100,000
100,000
50,000
40,000
0
10,000
0
50,000
0
0
50,000
10,000
410,000
3,916,028

## 流動資産

普通預金 みずほ銀行駒込支店(一般口)	1,101,209
みずほ銀行駒込支店(黄梅口)	1,423,914
みずほ銀行駒込支店(nifty)	20,852
郵便振替口座文京グリーンコート(一般口)	252,000
郵便振替口座文京グリーンコート(黄梅口)	0
郵便貯金文京グリーンコート(経費支出用)	272,861
現金	25,192
合計	3,096,028



注意：10/15をもってNPO法人になりましたので、旧任意団体としての「ベトナム子供基金」の最終会計報告です。今後はNPO法人化に伴い、これまでの会計期間（1月～12月）から4月起算月となります。11月～3月までのNPO法人「ベトナム子ども基金」としての会計報告は後日改めてお知らせします。

## 里子訪問雑感

里子のグエン・ゴック・クインさんとは初対面である。履歴書の写真よりも大人びていて、想像以上に聡明でしっかりしているという印象の8年生だった。家族は、お父さん、幼い弟、おばあさんの4人である。通訳ガイドのスアンさんとジャンさんの案内で訪ねた家では、おばあさんが快く歓迎して下さった。クインさんは、私に大きな、美しいベトナム刺しゅうのされたテーブルセンターをプレゼントしてくれた。ハスの花の赤が背面の青色に際立って見える。クインさんは、日本の文化などにとっても興味を持っているようで、以前、手紙で「里親さまは着物を着られますか？」と書いてきたことがあった。会



話の中でそれが話題となり、私は娘の成人式以来着ていなかったもので、そういうことを話したが、彼女が奉仕活動など積極的にしていることが納得できる気がした。部屋には仏壇があり、祈りは日本と同じだと感じた。おばあさんは、いろいろ果物やお菓子を出してもてなして下さって、会話が進んだ。いつも詩を書いているとおっしゃって、1枚のA4判の紙に書かれた詩を見せて下さったのである。「Tinh cam gia dinh」(家族への気持ち)とタイトルが大きく書かれている。家族への慈愛がこんなに深いのだと感じた。日本流に言えば韻を踏んでいるようで、リズムがあった。私が文字をなぞるのをクインさんは丁寧に読んでくれた。

翌々日は、クインさんと一緒にホー・チ・ミン廟を見学して回った。至る所に掲げられた

「謹賀新年」の「Chuc mung nam moi」の言葉を、私が覚えたばかりのベトナム語で口に出すのを彼女は笑って一緒に正しい声調、発音で言ってくれた。私はこの言葉が好き、と言って「Van su nhu y」(万事如意)を口にした。いろんな願い、希望が



なうということらしい。楽しいひとときだった。

私はスアンさん、ジャンさんたちの案内でベトナムの観光地をたくさん訪ねることができた。オートバイの放列の中、交差点を向こう側に突き進むのは、日ごとに快感になっていった。ホーチミン市では、市場、中央郵便局、聖母マリア教会、独立宮殿と呼ばれた統一会堂などを訪れた。統一会堂では大統領夫人になったような気分で大絵画の前のいすに座ってポーズ。フランス統治時代の上品さが漂う。水上人形劇の観劇はかわいらしく楽しかったが、一方で戦争証跡博物館では、目を覆いたくなるような悲惨なシーンが戦争の傷あとを生々しく伝え、訴えかけているようだった。

ミトーは、旅の最後。メコンデルタのクルーズは、広大な茶色の濁ったメコン川をモーターつきの木造船に乗り込み、進んでいく。熱帯の水辺の風を感じながら、川幅の広さも、空の面積の広さにも圧倒されていた。島に着き、果樹園を抜け、今度は小船で細い水路を分け行く、まさに「ジャングルクルーズ」である。すげがさをかぶり得意になっている自分があるが、落ちそうなきももあり、スリル満点だ。マンゴーや、パパイヤ、ドラゴンフルーツなどほおぼっていっぱい食べた。

今回、知人宅に数日ホームス

テイさせていただいたが、大歓迎して下さったのはとてもうれしかった。そのお宅ではお正月でもあり、親族がたくさん集まった。子ども、孫まで。

「Chuc mung nam moi」で乾杯である。お年玉を頂くのは日本と同じ、しかし、頂くとき、抱負とか、希望とかメッセージを言うのである。

大みそかは花火が威勢よく上がり、美しく夜空を染めた。ライトアップされた樹木や花や物売りの派手な衣装まで鮮やかに浮かび上がって、街はにぎやかだった。お正月は夜とはまた違った様相を見せた。メインストリートは、美しい花、花、花で、若い人も、老人も、カップルも、外国人もみなぐちゃぐちゃになって交じって歩く。みんな、きれいな服を着て。アオザイもさまざまな色で、思わず振り返った。この不思議な活気の中に、私の心もつられて浮き立っていた。カンザン (Canh Dan



庚寅)と書かれ、トラの年を祝う。花を愛する人たち。エネルギーに生きる人たち。体も顔も熱く、目が合うと知り合いのような人なつっこさで、こちらを見つめる人たちが、なぜか忘れられない。

今回の訪問ではたくさんの方々、大変お世話になった。クインさんが書いてくれた「感謝の気持ちを忘れず、ご期待を裏切らないように学び続けます」のメッセージや、おばあさんが下さった「詩」をいつも持ち歩いている。感謝、感謝。Xin cam on.

きくち さちこ  
(菊池 幸子)

## ベトナムからの手紙

里親さまへ

私は、H・ムン・ニエの母です。長い間お手紙をしたためていなく、申し訳ありませんでした。里親さまの状況をお伺いしたく、本日この手紙を書きました。里親さまとご家族ともいかがお過ごしでしょうか。お仕事も順調なのでしょうか。お子さんたちは、お勉強を頑張っているのでしょうか。

私たちの家族は、おかげさまで元気に過ごしています。現在、私の一番上の姉と子ども6人と私たち夫婦の9人で一緒に生活しています。子ども6人のうち、男の子が3人で女の子が3人です。男の子3人とも、学校を中退しました。上の2人の女の子は学校に通っており、一番下の女の子がまだ4歳です。私たちの家族の経済状況はかなり厳しく、男の子を通学させる余裕がありませんでした。夫は持病があり働けなく、日雇いの仕事をしています。そして耕作用地も足りなく、農業と日雇いの仕事で生計を営んでいるので、子ども全員を学校に通わせることができません。H・ムンは6年生で、長女は8年生です。男の子たちは、7年生と8年生のときに中退し、仕事の手伝いをしています。

日本にいる里親さまのことをいつも思っています。日本の方々のおかげで私たちの子どもを含むベトナムの多くの子どもたちが大変助かっています。青葉奨学会のおかげで子どもたちに学用品や服、学習机を買うことができました。私たちの経済能力では買えないものばかりですが、感謝の気持ちを申し上げます。今までH・ムンに援助していただいたことについては、私たちは一生忘れません。

昨年、里親さまより定規が入っているお手紙や、里親さまご家族の写真を頂きました。遠く離れた日本から頂いた写真を見てとても感動し、大切にしてい

ます。私たちは、里親さまやご家族を忘れません。なぜなら、遠く離れていても私たちの家族に対するお気持ちを深く感じたからです。昨年、H・ムンが手紙を書きましたが、その手紙は届いたのでしょうか。

私は、エーデ (Ede) の民族であり、共通語について理解していない部分もあるのですが、どうしてもこの手紙を書きたかったのです。何か失礼なことがあったら、お許しください。

最後に里親さまとご家族のご健康やご幸福をお祈りします。もしお時間が許したら、お手紙を下さい。待っています。

H・ネット・ニエ

里親さま

私はフックです。これまでお礼の手紙を差し上げることができず、本当にすみませんでした。里親さまに手紙を差し上げることを怠っていたというわけではなく、実は6月に里親さまに手紙を差し上げたのですが、郵送途中で私の手紙がなくなってしまい、里親さまのところに届けられませんでした。ですから遅くなったことをお許しください(注：里子の手紙はその子の学校→学校がある地域の奨学会→ホーチミン市にある青葉奨学会→日本のベトナム子ども基金へと届きます。その送付過程で手紙が紛失したものと思われる)。今、私は学校で午前から午後までずっと勉強し、さらに家に帰ってまた勉強をするのでとても忙しいのですが、今夜ちょっと時間を空けて里親さまに手紙を書いています。

去年の成績についていえば、英語の成績がちょっと下がってしまいがっかりしました。後期の英語の成績は「良」でしたが、学年全体としての成績は「優」を得ました。努力して優秀な成績を修めたので、一応気持ちが少し落ち着きました。でも、今、英語能力についてとても悲しく心配しています。なぜなら、ほかの理系の科目を勉強する時間を減らして英語を一生懸命勉強したにもかかわらず、成績が上がりなかつたので、悲

しくてたまりません。

あと1年でこの愛着ある母校レ・クイ・ドン高等学校を卒業して、新たな人生の道を迎えるときになります。私はテクノロジー技術大学と医薬大学という2つの大学を受験したいと思っています。大学受験までに両親や先生方のアドバイスを参考にし、どんな専門分野のどんな大学に進むかをよく考えて決めたいと思います。

今学期の目標は高校生時代の良い思い出作りのために何かをやりたいと思っています。この前、我が校で数学の考査試験を受け表彰されました。それで次に県全体の第1回数学考査試験を受けることになりました。この試験に良い結果を修めるために、里親さま、私を励ましてください!

振り返ってみると、小学校の5年生だった私は今や高校3年生となりました。長い間、里親さまと青葉奨学会の皆さまからたくさんのお励みや支援をいただいていることになりました。そのおかげで私は勉強が順調に続けられ、私の家族の負担も軽くなりました。言葉に言い表せないほど心から感謝しています。里親さま、青葉奨学会の皆さま、本当にありがとうございます。

それでは、里親さまと青葉奨学会の皆さまの健康をお祈りいたします。さようなら。

ファミ・フウ・フック

里親さま

1年ぶりにまた里親さまへのお手紙を書く機会があつて、よかったと思います。里親さまとご家族の皆さまはお元気ですか。里親さまが楽しく幸せに過ごされることを望んでいます。

この1年、家族、親類、友だちのことから自分のことまで私にとっていろいろな変化がありました。私はベトナムの田舎に生まれて、ほかの家族と同じようにお米による生活を送っています。子どものころ、母は父が亡くなったことで神経質になってしまいました。それで、私たちの家族を支える人は祖母になりました。祖母にとって農家の仕

事は本当に大変なのです。親類と近所の手を借りて私たちの生活は何とかやってきました。私たちきょうだいはだんだん成長して、今では自分の生活を自分で支えるようにいろいろなことをやって、祖母を手伝えるようになりました。祖母は今年75歳になり、以前より年取ってきたので、姉は私たちの学費と生活費を背負わなければならなくなりました。私たちはいつも祖母のために頑張って勉強しなければならないと心がけています。祖母のそばにいるときは、祖母と手をつないで祖母と話します。

今年私は高校3年生になりました。学生時代の大切な時期だと思います。将来を信じ祖母と周りのいろいろな人のために、社会に役立てるように一生懸命勉強したいと思います。

里親さま、ずっと励ましをいっぱいいただけてきました。里親さまからの愛情は、私にとって人生を信じて生きていく糧になっています。雨が止んだらきっといい天気になる、というのを信じるようになりました。本当にありがとうございます。

ドゥオン・ヴァン・ラム

書き始めます。なぜかという昨日の夜、私の夢で里親さまが私の家にいらっしゃったことを話したいからです。本当にうれしかったです。子どもころから私を探しにきて、私の名前を呼びながら頭をなで髪にキスしてくれる人をずっと待っていました。それは今日の夢の中でしたが、里親さまが来てくださって、やっと私の夢がかないました。言葉は違っても、心と心の間に壁はなかったと思います。

今、私の新たな目標は里親さまと日本語で話すことです。私は日本語を勉強します。いつか里親さまに日本語で手紙を書きたいと思っています。これから学校に行きます。

今日は、元気が出るような気がします。今度もっと長い手紙を書こうと思います。

元気で過ごしてください。最近ベトナムでは風邪を引いてしまう人が増えています。日本の様子はよく分かりませんが、里親さまも気を付けてください。では、ここでペンを置かせていただきます。里親さまがいつも元気で幸せであることを願っています。

ヴァン・アイ・ハン

り申し上げます。

今日、ハノイ薬科大学の合格通知書をもって、すぐに里親さまへ手紙を書いています。高校卒業試験の成績は「優」で、第1志望だった薬科大学にも合格できました。将来、薬品を作って親せきやみんなの病気を治す夢があります。ですから、夢の一部が実現できたといえるでしょう。これから、さらに夢をかなえるために、大変努力しないといけないと自覚しています。一生懸命頑張りたいと思います。「成功へ結ぶ道は怠け者の足元にはない」の言葉通り頑張ります。

私も家族のみんなも里親さまや奨学会の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。おかげで自信や希望を持って、勉強に集中できました。将来、いくら困難があっても努力し頑張りたいと思います。

最後になりましたが、里親さまいつもありがとうございます。里親さまのご健康、ご幸運をお祈り申し上げます。グエン・ティ・ティン・フェン

補足：「成功へ結ぶ道は怠け者の足元にはない」は、ベトナムのことわざで「努力しないと、成功できない」という意味です。

里親さま

今は朝5時です。私は起きたばかりで、里親さまへお手紙を

里親さま

初めに、里親さまとご家族の皆さまのご幸運、ご健康をお祈

## ●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございました。(順不同・敬称略) (新)は新会員

2009年7月

2009年8月

2009年9月

2009年10月

2009年11月

2009年12月

2010年1月

2010年2月

2010年春の木運動

## ◆ベトナム子ども基金会員募集！ (友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします！)

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

・ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座をお願いいたします。NPO化で口座番号が変わりました

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ)：トクヒ)ベトナムコドモキキン

里親基金用(一般、賛助基金を含む)

郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865

黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)

郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873

## ◆事務局だより

シンチャオ！ 会員様の中には、テト（お正月）をベトナムで里子と一緒に過ごされた方もおり、喜びいっぱいの帰国報告をいただきました。一度ベトナムでテトに里子たちと過ごしてみたいものですね。NPO法人化の作業に追われ、子ども基金通信の発行が遅れましたことをおわび申し上げます。今年はベトナム留学生などを講師に迎え、ベトナムについての勉強会を毎月行っていく予定です。留学生の日本語の勉強にもなり、また、現在のベトナム留学生の考え方を実際に聞くことのできる、とても楽しい会です。どなたでも参加可能ですので、知人・友人をお誘いの上ご参加ください。皆さまとお会いできることを楽しみにしております。 事務局 樋川

## ◆事務局応援スタッフ募集！！

ベトナム子ども基金事務局では、一緒に事務局運営を手伝っていただける方を求めています。NPO化となって、ますます支援の輪を拡大して、今後とも持続的な活動を行っていくために、皆さんのお力をお貸しください。ベトナム子ども基金通信の編集や里子履歴票の発送作業、イベントやプロジェクト企画など、さまざまな活動にお力を貸してください。

ベトナム青葉奨学会 QUY HOC BONG LA XANH 電話：84-8-8477359 FAX：84-8-8477527  
C/O TRUONG NHAT NGU DONG DU 43D/46 Ho Van Hue, Q. Phu Nhuan, Ho Chi Minh, Viet Nam  
「ベトナム子ども基金」は、ベトナム現地の「青葉奨学会」を通してベトナムの子どもに奨学金・支援金を贈っています。